



避難場所を地図に書き込む美馬記者（左）

※英単語のDisaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字を取ったもの

みなさんは「DIG※」という言葉を知っていますか。これは、地震などの災害を想定し、対応や避難経路などを大きな地図に書き込むもので、災害図上訓練と呼ばれています。

この日は、北第1町内会（宇野俊光会長）や北24条商店街振興組合（小泉詔信理事長）の人たちと北24条駅周辺のDIGにチャレンジしました。まず、まちを歩いて危険な所をチェックした後、みんなで課題を話し合いながら、地図に書き込みました。

## まちを知って危険を回避！ 地域の防災地図を作ろう！



地域を歩きながら危険な個所をチェック

### 自分たちのまちでも

防災には、自分のまちを知ることが大切だと言われます。一緒に歩いた町内会の人も「ここは市の避難場所だよ」だとか「この団地には高齢者が多く住んでいるよ」などと地域の情報を教えてくれました。

地域を知っていると、いざというときに、自分が安全に避難できるだけではなく、弱い立場の人を助けることもできます。今回、参加したDIGを自分たちのまちでもやってみたいです。

防災について、篠路中央保育園の林茂子園長に聞きました。「地震や火災だけではなく、不審者の侵入なども想定して、毎月避難訓練を行っています」と話す林園長。子どもたちが忘れないよう、何度も繰り返し訓練を行うそうです。また、直接消防署へつながる非常電話や、二階から避難できる滑り台も見せていただきました。

「火災に備えて消火器の点検も欠かせません」と語る林園長。大切な子どもを預かる強い責任感を感じました。

### 施設の人に聞きました

篠路地区のグループホーム「からまつ」でも、災害から入所者を守るため、定期的に避難訓練を行っています。体が不自由な方もいて、短時間での避難は難しいと思いましたが、車いすを使ったり、毛布の上に乗せて移動したりなど、いろいろと工夫をしています。

「入所者の頑張る気持ちを大切に、できないことだけ手伝うよう心掛けています」と話すのは、管理者の赤城美智代さん。笑顔で触れ合う姿が印象的でした。



赤城さん(右)と古川記者



林園長(右)と櫻井記者

今回、いろいろな取材で、防災がどれだけ大切かを学びました。もしものときに備えて防災訓練などをしっかりとやっていきたいです。

太平洋中1年 美馬貴生君

防災について多くのことを学ぶ中、いつ起きるかわからない災害に対する準備の大切さを感じました。自分のまちの災害対策も確認しようと思います。

屯田北中2年 櫻井百奈さん



今回の取材で、防災には日ごろの備えが大切なことがわかりました。今後は、地域の訓練などにも積極的に参加してみたいです。

教育大附属中1年 前田健史君

地域の防災活動等について、詳しく知ることができて良かったです。今回の体験は自分の周りの防災を見直す良い機会になりました。

屯田北中2年 古川舞さん

### 取材を終えて